

「五ヶ所」17ト見込む

三重・JA伊勢出荷スタート

【三重・伊勢】南伊勢町のJA伊勢南勢撰果場で11日、「五ヶ所小梅」の出荷が始まった。出荷は5月末まで約17トを見込む。

JA梅部会の中西博道部会長は「昨年度産はひょう害の影響で、出荷量が少なかったが、本年度産は天候に恵まれた。品質は良く、数量は平年並みを見込む。多くの消費者に小梅を食べてもらい

たい」と話した。同JA管内では、部会員31戸が約3・2トで「五ヶ所小梅」を栽培する。出荷した小梅は、県

内のスーパーや、通販サイトのJAタウンでJA全農みえが運営する「三重の味自慢」などで販売する。南伊勢町のふるさと納税の返礼品にもなっている。

「五ヶ所小梅」は、真珠のような透明感がある果色から、「真珠小梅」とも呼ばれる。種が小さく、果肉が厚く、柔らかい。果肉が傷まないよう、収穫から選別は手作業で慎重に行う。



「五ヶ所小梅」を慎重に選果する作業員